



社会貢献・地域貢献【スポーツ編】



～目指せ！未来のオリンピック選手！！

全国で唯一の人工芝マイコートをもつ「フリーデンホッケー倶楽部」誕生～

栃木県内にホッケーが広まったのは1980年に開催された「栃の葉国体」での初の総合優勝がきっかけです。また、旧今市市（現日光市）がホッケー競技の会場となったことから、フィールドホッケー（以下ホッケー）選手の育成が始まり、地元の方々に愛され続けるスポーツになったのです。

そこで、地元を愛する有志の方々が地域にホッケー競技を浸透させようと決起。

私もメンバーの一員として、2003年11月16日、「フリーデンホッケー倶楽部」を立ち上げました。（因みに私の息子も小学3年生より参加→今中→今高→東海大とホッケー部に参加しました。）

※フリーデンはドイツ語の「平和」で、地域への貢献を意味します。

フリーデンホッケー倶楽部役員名簿（敬称略）2021.4.29現在]

役職	氏名	氏名	氏名
会長	湯澤 隆司		
副会長	湯澤 睦門 (コーチ兼任)	吉原 浩之	
理事	佐竹 勝彦	青木 一明	小杉 好正
	柏木 和夫	佐久間 幸久	柏木 昭三
	山本 孝雄	柏木 紀子	斉藤 五月
	桑原 信光	桑原 美江	根岸 正恵
	生海 充広	小林 佑輔	
会計	小林 佑輔	秋澤 忍	
監事	野沢 茂	村山 裕子	
代議員	倉沢 正之	木村 正直	新井 明美
	小杉 久美子	高木 秀子	

【メモ】 設立当時、私の義弟湯澤睦門氏は、栃木県のホッケーの父と言える佐竹先生より栃木国体の活動のため招聘されました。その後は実業団チーム「日本グラクソ」の監督と栃木県ホッケー協会の副理事長をしていました。



「フリーデンホッケー倶楽部」の皆さんです。



将来のオリンピック選手候補の子供たちとホッケーを愛する大人たちが、人工芝の専用コートで練習に励んでいます。

当倶楽部の自慢は、全国で唯一“マイコート”を持っていることです。県の施設の改修によって出た中古の人工芝を譲り受け、部員の手で、コートを作り上げました。小学生と保護者がフィールドホッケーを通して、家族との絆を強め、フィールドホッケーの普及を図り、将来はクラブからオリンピック選手の輩出を目標としています。なお過去には、小学生の部全国大会で優勝3回、準優勝も数回しています。

【メモ】 お陰様で伝統あるチームに成長しまして、湯澤コーチは皆さんより「カリスマ！！湯澤マジック！！」と言われていました。因みに義弟睦門氏は天理高→天理大のホッケー部の優秀選手で、招聘されて日本グラクソのコーチになりました。

人工芝のコートを自分たちで作った？！

私たちが現在練習で使用している人工芝のコートはなんと手作り！コートが出来る前は334本の杉が・・・。
計画から完成までのナミダあり感動ありの1年半。名づけて「Project Z」（プロジェクトZ）是非、ご覧下さい！



人工芝のコートを自分たちで作った？！（2004.2.24）1年半かけて～

【小学生の部】

全国大会優勝歴（女子3回目）と（男子3位）は2014年8月8(日)の第36回全国スポーツ少年団ホッケー交流大会島根県奥出雲町にて。
当倶楽部の最高の受賞でした。



女子8年ぶり優勝おめでとう



男子3位おめでとう

【マスターズ女性の部】



女性チーム誕生！！以前オリンピック候補者がいたとか？2014年11月30日

【マスターズ男性の部】



2014年9月15日岡山県瀬戸町にて全日本マスターズホッケー大会48才以上の部で3位



2016年9月4日全日本マスターズホッケー札幌大会フリーデンホッケー倶楽部より2名エル・アセボチームに合流参加
(湯澤コーチ・駒田氏)
故高円宮殿下の友人の飛田監督のチーム



2016年5月2日マスターズワールドカップオーストラリアニューカッスル世界大会にフリーデンより湯澤コーチ参加 (私は応援)



2015年10月25日マレーシアクアラルンプール大会フリーデンより湯澤コーチ参加 (私は応援)

【ホッケーこぼれ話】

高円宮憲仁殿下とエル・アセボチームについて —高円宮殿下はスポーツ団体の名誉総裁として—

高円宮がお就きになっていた16団体の名誉職については、各団体からの強い要望を受けて、後に久子妃殿下がすべて継承されている。

学習院高等科時代に陸上ホッケー部で活躍した高円宮は、平成元年（1989）9月6日、社団法人「日本ホッケー協会」の名誉総裁に就任された。高円宮のスポーツ人生の原点は、ホッケーである。社会人になると再びホッケーを始め、後の自分のチームまで作られている。まさに「ホッケーの宮さま」である。

日本のホッケーの始まりは、明治39年（1906）11月、英国人牧師ウィリアム・T・グレーが慶応義塾のホッケー倶楽部を指導した日とされている。

インターハイには学習院大学ホッケー部の飛田孝も同行した。飛田は学習院大を卒業後、日本道路公団に入っていた。監督に迎えられ、関東大学ホッケーリーグの3部まで落ちた学習院をあっという間に1部に引き上げた功労者である。

高円宮が率いる6人制ホッケーチーム「EL ACEBO（エル・アセボ）」、アセボはスペイン語で柀、エルは冠詞だ。お印の「柀」に由来する名前である。メンバー12人は学習院ホッケー部OBで、飛田、竹口も入っている。もっとも、最初の名前は「ヤチマタムラ」だった。飛田の古里の因む名前である。

（以上伝記より抜粋）

出典

高円宮憲仁親王

平成17年（2005）6月25日 初版発行

編集 高円宮殿下伝記刊行委員会

発行者 渡邊恒雄

発行所 読売新聞社

発売元 中央公論新社

わがフリーデンホッケー倶楽部もマスターズ大会は毎回エル・アセボチームに合流して全国大会に参加しております。

そんなご縁で飛田監督とは交流があり、ご厚意として伝記をおかりして引用させていただきました。

今回の記事の出典元は高円宮殿下伝記刊行委員会編・読売新聞社発行の「高円宮憲仁親王」です。



左より、私・平尾雅子氏・飛田監督・湯澤コーチ（2014.9.15）
（マスターズ全国大会岡山県にて、第3位祝勝会）

2022年3月31日現在

【栃木県ホッケー協会について】

弊社ユザワも協賛企業として協力させていただいており、今回はフリーデンホッケー倶楽部の役員としてご協力いただいている青木一明県協会理事長より記事取材させていただきました。感謝申し上げます。

〔栃木ホッケー協会 主な出来事〕

- 1970 佐野日大高ホッケー部創設要請
- 1971 今市高・今市工高もホッケー部を創設
- 1972 県協会が発足。国体の競技会場が今市青少年スポーツセンターに決定
- 1975 大沢青年団が県内初の成年男子チーム創設
- 1976 日本グラクソが女子実業団チーム創部
- 1979 今市高が男女そろって関東大会初優勝
- 1980 栃の葉国体で初の総合優勝
- 1983 今市高男子が全国高校総体を制し初の日本一
- 1989 今市高女子が全国高校総体で初優勝
- 1990 福岡国体で2度目の総合優勝
- 1995 男子社会人チームの栃木クラブが発足
- 2011 日光市ホッケー場が完成
- 2014 栃木クラブが東日本社会人リーグ3連覇
- 2015 栃木クラブを前身とするリーベ栃木が発足し、日本リーグ参入
- 2019 茨城国体で3度目の総合優勝
- 2021 リーベ栃木が日本リーグ初制覇

2022年現在の役員（抜粋、敬称略）

- 会長 粉川日光市長
- 副会長 今市高校学校長
今市工業高校学校長
佐竹勝彦
- 理事長 青木一明
- 副理事長 和田公伸
福田 敏

※一時、湯澤睦門氏も副理事長として参加していた。

今年の栃木国体で4度目の総合優勝を達成すべく、選手たちは燃えています。直近20年間の国体では、本県の総得点のうち10%以上をホッケーが占めるなど貢献度の高さが際立っています。国体を契機に地域とスポーツが結び付いた「成功例」の一つと言えますね。



全国スポーツ少年団大会より

[今市高校の歩み]—素晴らしい栄光—

特に、栃木国体では旧今市（現在日光市）が少年チームの主力を担う。

当初は佐竹勝彦教諭（京都大谷高校）を招聘し、以来26年間栃木県今市高校の監督を務められ、基礎を築いた。

1979年男女共に全国の頂点に。

以来女子は36回、男子は17回優勝と圧倒的な実績を誇る。

活動約50年で卒業生は600人以上。

指導者として戻った福田敏前監督のほか、現在男子の指揮を執るのは木村浩一郎氏、女子は長谷川彩氏。因みに私の息子の孝平も2008年3月富山県での全国選抜大会で準優勝を経験していて、その後東海大学でも頑張った。

【ホッケー人工芝コートのこぼれ話】

－スポーツ振興（地域活性化）と地元愛将来の子供達のホッケーのために－

－今後貼替え費用はクラウドファンディングか??－

聞くとところによると、日光市のホッケー場（完成から10年）は人工芝の経年劣化が徐々に現れ、昨季は日本協会が定める規定を満たせず使用不可に。

国体には影響がないが、市は更新の岐路に立たされている。

市ホッケー場は約5億円の費用を投じて2011年に完成。

協会規定は敷設から10年間で芝の使用基準内と定めており、昨年9月で公認切れとなった。

そのため昨季のリーグ戦全てが県スポーツセンターホッケー場で行われた。

芝の張り替えには多大な費用がかかり、現時点で予定はない。県スポーツセンターホッケー場が19年に張り替えられており競技会場に困ることはないが、更新を待ちわびる関係者も多い。

地域スポーツ（地域活性化）と地元愛、そして将来の子供達のホッケーのために、今後は日光市への働きかけと共に、ハードルは高いと思うがクラウドファンディングの寄附活動で資金集めを進めていくのが望ましいのではないかと思う。

そのため私も微力ながら協力したいと思います。

以上取材ご協力ありがとうございました。

2022年4月10日現在

【日本リーグ〔LIEBE（リーベ）栃木〕について】

弊社ユザワも立ち上げから協賛企業として、協力させていただいており、2022年度はフリーデンホッケー倶楽部より2名（水口君・高橋君）が参加しております。今回ご縁ありまして、知人のチーフマネージャーの篠原義典氏より、記事取材のご協力をいただきました。



リーベ栃木結成に参加
（当時 左より薄井君、私、高瀬GK）
※リーベはドイツ語の「愛」で、
栃木への愛、ホッケーへの愛を意味しています。

〔LIEBE栃木の経緯（抜粋）〕

1995年	男子社会人チーム「栃木クラブ」発足
2015年	LIEBE栃木を結成
2017年	1部へ昇格（日本リーグ）
2021年	最高峰の高円宮牌男子ホッケー日本リーグ優勝（創部7年目日本一）

着実な活躍を見せていて、東京オリンピック代表選手を輩出。
女子ではグラクソスミスクリラインは1名、リーベ栃木からは4名県勢男女5人選出され、過去最多となった。

【LIEBE栃木2022年 体制と目標】

LIEBE栃木 2022体制（敬称略）

GM 佐竹 勝彦
 監督 福田 敏昭（元日本代表・コーチ4）
 コーチ 若林 勝己（元日本代表GK・コーチ3）
 トレーナー 青木 秀和
 アドバイザー兼コーチ 高橋 章（日本代表HC）

主将 星 卓（元日本代表）
 選手 23名（うち新規加入3名）

LIEBE栃木 2022目標

- いちご一会とちぎ国体 **優勝**
- 日本リーグ **連覇**
- 全日本選手権大会 **優勝**
- パリオリンピックに向けた代表輩出
アジア大会優勝



LIEBE栃木頑張ってる（元フリーデン高橋君）

LIEBE TOCHIGI

LIEBE栃木の主な活動

2021年12月6日 下野新聞 1面

2021年12月24日 日刊スポーツ

LIEBE栃木の主な活動 下野新聞より



高円宮杯2021年ホッケー日本リーグ男子H1優勝メンバー

地域として又ホッケーを愛する者として今後のご活躍を期待申し上げます。
 尚、取材ご協力ありがとうございました。

2022年4月10日現在